

各学校や地域における地域学校協働活動の推進を目的に、地域と学校の連携・協働に関する情報を発信する連携協働通信「架け橋」を発行しています。当課のWebサイトでもご覧いただけます。

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kosodate-kyoiku/kyoiku/sesaku/chiiikirenkei/gakkoushien.html>

地域学校協働活動を通じた学校運営の改善研修① 報告

2日間で223名の参加！充実した研修になりました！！

5月13日、16日に管理職を対象にした研修を実施しました。講師に文部科学省総合教育政策局地域学習推進課 宮崎 雅史 様、CSマイスター 竹原 和泉 様より講演をいただきました。お二人からは実体験を交えた、熱いお話を聞くことができました。

宮崎様からは学校が「本音」を語ることで地域も本気になって考え、協力してくれるということ。竹原様からは学校運営協議会や地域学校協働活動において「何を」するのではなく「なぜ」するのかということを考えていくことが大切だとお話がありました。コロナの状況もあり思うような地域との連携が難しい状況だとは思いますが、今回の研修がきっかけとなって、少しずつ地域との関わりが動き出すことができると考えています。

教育委員会事務局としては引き続き学校運営協議会の設置に向け、個別相談を続けていきます。学校に何ってのご説明もさせていただきますので、ご連絡ください。お忙しい中、多くの管理職の先生方にご参加いただき本当にありがとうございました。

※今回の研修で使用した資料はYCANにUPしますので
ご活用ください。



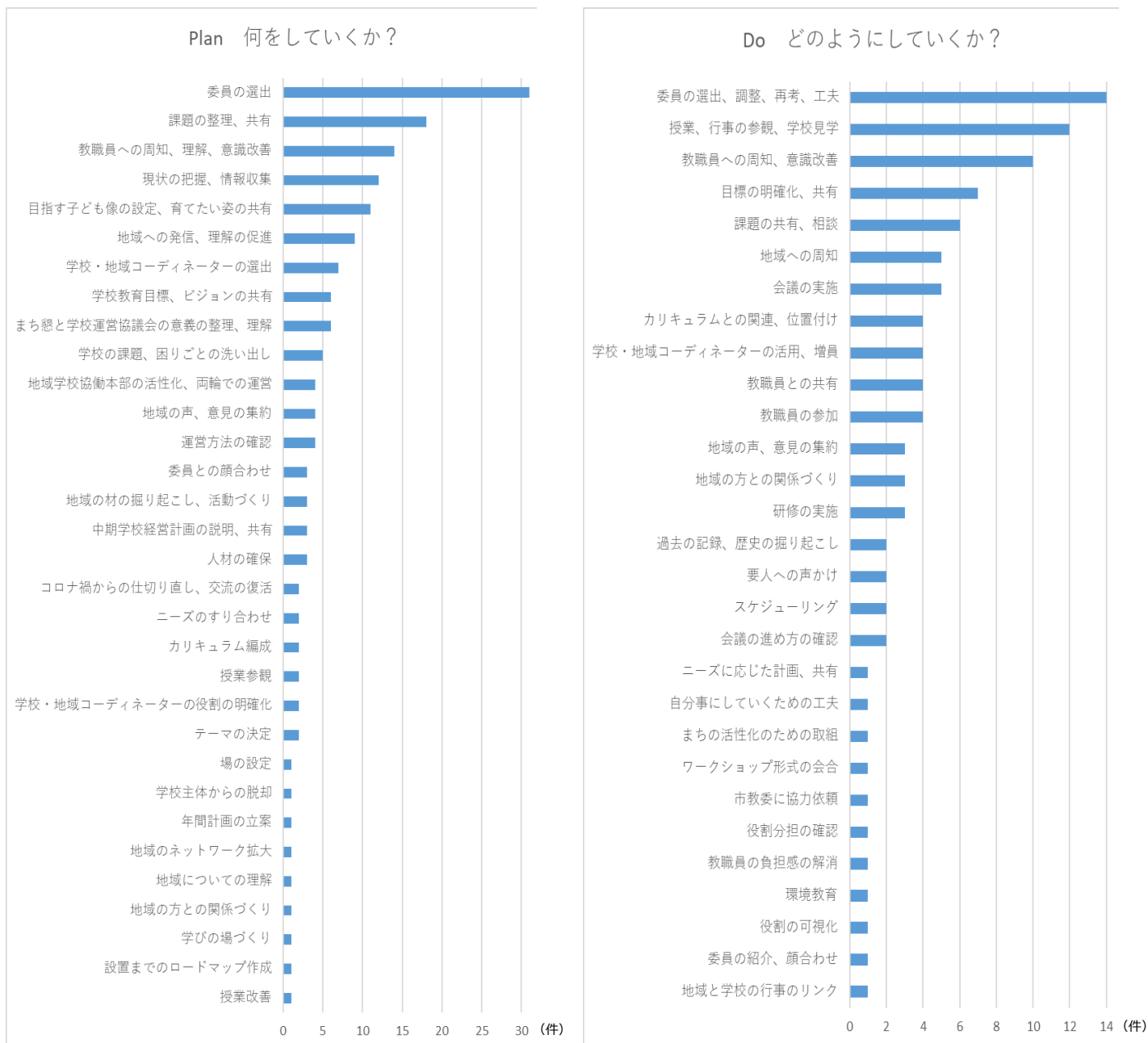
研修 振り返り (自由記述)

- ・学校運営協議会を立ち上げ、持続可能な形にしていくためには改めて人選が重要であること
- ・地域連携を進めるためにも学校・地域コーディネーターと連携を取っていくこと
- ・教職員にも制度について周知し理解を得ていくことが大切
- ・有益な活動にしていきたい。そのためには学校の本気を地域・保護者に見せていく事の大切さを感じた。
- ・校長のリーダーシップの重要性を認識した。常に攻めの姿勢で取り組んでいきたいと思った。
- ・子供達は家庭で育ち、学校で学び、地域で伸びる。この3者が協働することの大切さを再認識した。

研修 グループワーク (記録)

「地域と学校の連携・協働推進のPDCA サイクルを回すために・・・管理職として、できることは？」をテーマにグループ協議を行いました。グループで出された主なものを以下に紹介します。

※それぞれのグループごとの記録の詳細は、別添資料をご覧ください。



まずは「委員の選出」「教職員への周知」が必要であるという意見が多くのグループで挙げられました。どのようにして委員を選出するのか、どのような方を選べばよいのか悩んでいるという声や、校内の教職員の理解が進んでいない、意識改善が必要だという話も出ていました。

また、学校運営協議会を運用していくにあたって、「現状の把握」をし、「課題の共有」をしていく必要性も挙げられています。それぞれの学校で、学校教育目標や中期学校経営計画を実現するための活動であるということ意識して、地域との連携を進めていくことが大切です。よりよい連携・協働の推進のために、教育委員会事務局としても引き続き支援をしてまいります。

学校・地域コーディネーター研修 報告

5月18日、25日に学校・地域コーディネーター養成講座を3年以上前に受講した方を対象に研修を実施しました。研修では復習を兼ねて学校・地域コーディネーターの役割や活動を行うにあたって改めて原点に立ち返り確認してほしいこととお話しさせていただきました。活動は教育課程に沿って行うことや学校のニーズ、実態に合った活動を行うということを説明し、併せて学校運営協議会制度についても少しお話しさせていただきました。

講師には横浜市学校地域コーディネーター連絡会 高橋 由美子 様に参加していただきお話をさせていただきました。高橋様からは実際に活動を進めるにあたっての振り返りや、今の制度や役割についてもコミュニケーションワークを取り入れながら、明るく穏やか和やかな雰囲気ですべてを進めていただきました。その後の参加者同士のグループでの情報交換では、久しぶりに他校の方との交流ということもあり、活発な意見交換が行われ、良い表情で参加している様子が多く見られました。



今回の研修を通じて、学校・地域コーディネーターの交流会を自発的に行っている区もあるようです。日時がわかれば教育委員会としても参加させていただきたいと考えていますので、ご連絡をいただくとありがたいです。また活動を通じてご不明点等あればいつでもお問い合わせください。今後も学校・地域コーディネーターの方が活動を振り返り、改めて活動を進めていけるような研修を計画していきたいと考えています。

※今回の研修で使用した資料は YCAN、横浜市の HP に7月上旬に UP します。

研修に参加された学校・地域コーディネーターの方にもお伝えいただき、ご活用ください。

研修振り返り（自由記述）

- ・活動を継続していくために後継者にいかにつないでいくか考えたい。
- ・学校と相談しながら、子どもたちのために地域の力を発揮していきたい。
- ・現在の活動を継続しつつ、学校ニーズを掘り起こしたい。
- ・自分たちが立ち上げた当時は思い出し、バージョンアップしていきたいと感じた。
- ・忘れかけていた基本方針を思い出した。
- ・改めて原点に立てたこと、コーディネーターの立ち位置を整理することができた。
- ・コロナ禍あけの活動なので、もう一度土台固めをしていきたい。

2日間で93名の参加がありました！参加者の内訳は次の通りです。

活動年数	3年～5年	6～8年	9～10年	10年以上
参加者数	47名	20名	15名	11名

第1回 学校・地域コーディネーター養成講座始まりました！！

地域と学校の連携・協働を推進するために、地域と学校を繋ぎ、総合調整を行う「学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）」の養成講座（年間5回）の第1回を6月より開催しました。本講座は、学校で学校・地域コーディネーター（地域学校協働活動推進員）として活動することを目標にプログラムを組んでいます。

今回は教育委員会より、地域とともに子どもを育む学校づくり～学校・地域コーディネーターの役割と意義～について、また人権教育・児童生徒課より子どもの人権についてお話をさせていただきました。その後、講師である横浜市学校地域コーディネーター連絡会 高橋 由美子 様よりコーディネーターとはどういう役割があるのかということワークショップ形式で参加者に丁寧に伝えていただきました。参加者も初めは不安を抱えた様子でしたが、会が進むにつれ緊張が少しずつほぐれ、グループでの話し合い等も積極的に関わることができていました。今回は1回目ということもあり学校からも何名か先生方も参加していただきました。本当にありがとうございました。

今後も引き続き各学校において地域学校協働活動の充実に向け、学校・地域コーディネーターのお仲間を増やしていけると良いと考えています。令和5年度も引き続き養成講座は続いていきますので、来年度の養成講座への推薦に向けご準備を引き続きよろしく願いいたします。

※今回の養成講座に参加するにあたり、決められた方面での日程での参加になっていますが、どうしても都合がつかないような場合は日程の変更は可能です。その場合は、ご連絡を頂きたいと思えます。また4回目、5回目の養成講座はセットになっています。もし4回目の日程を変える場合は5回目も変える必要がありますので、ご確認ください。

※学校・地域コーディネーターは兼任が可能であり、近隣の学校のコーディネーターに自校のコーディネーターを担っていただくこともできます。その場合は、兼任届の提出が必要になりますのでご確認ください。その際、学校間のやり取りやコーディネーターの意思確認が必要になります。



研修振り返り（自由記述）

- ・たくさんの方とこの講座で知り合い、学校と連携を取りながら何ができるか考えたい。
- ・多くの方がきちんとコーディネーターの役目に向き合っていることに感動した。
- ・ますます子どもたちと関わりたいが、学校の期待やニーズを把握するためにコミュニケーションを大切にしていきたい。
- ・コーディネーターの役割を理解しつつ、自分に何ができるか考えるきっかけになった。
- ・思った以上の参加者で驚いた。ネットワークづくりの第一歩だと感じた。
- ・学校に行ったときに、子どもたちとの接し方を考えることができた。
- ・子どもの人権を大切にして接してあげたい。子どもにも人権がある。



今後の研修のお知らせ

地域学校協働活動を通じた学校運営の改善研修②

学校運営協議会会長や委員を兼ねた学校・地域コーディネーター、教職員（各校1名）を対象に研修を行います。対象者への周知をお願いいたします。

1 日時及び会場

	日時	会場
1	7月1日（金）15:00～	花咲研修室
2	7月12日（火）15:00～	花咲研修室

- 2 内容 ○ 横浜市教育委員会より地域と学校の連携・協働の推進について説明
○ 文部科学省 CS マイスターより講演、グループワーク

※詳しくは令和4年6月2日付、教学第502号通知「地域学校協働活動を通じた学校運営の改善研修②」をご覧ください。

まだ座席に余裕がありますので、参加可能です。協議会会長さんや学校・地域コーディネーターさん、また教職員への周知をお願いいたします。

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員合同研修

学校運営協議会委員、学校・地域コーディネーター、教職員（各校1名）を対象に研修を行います。

1 日時及び会場

	日時	会場
1	10月21日（金）15:00～	花咲研修室
2	10月31日（月）15:00～	花咲研修室

- 2 内容 ○教育委員会からの説明、実践校による事例発表やグループでの情報交換を予定しています。詳細は今後、発出する通知でご確認ください

事務連絡

今年度の学校運営協議会の設置の機会はあと1回

学校運営協議会 設置の機会	
設置日	令和4年10月1日
申請書提出の締切日	令和4年8月1日

○申請の際は、設置申請書と名簿を合わせてご提出をお願いします。

※現在、単独設置の学校運営協議会を、複数校による合同協議会に切り替えることをご検討の場合、以下の点にご注意ください。

- ①新たに設置申請書と委員名簿を提出していただく必要があり、スケジュールは同様です。
- ②合同で立ち上げるまでの間、単独での学校運営協議会の設置校であり続けます。
- ③単独の協議会において、合同協議会への移行について委員への丁寧な説明が必要だと考えます。

何かお困りなことがありましたら、いつでもご相談ください。
学校支援・地域連携課 671-3278

Plan 学校運営協議会を運用していくにあたって、 <u>何を</u> していくか？	Do 実現するために、 <u>どのように</u> していくか？
5月13日	
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区行っている。 委員の方が決まっている。 地域の方々が集まっている形になっている。形骸化しつつある。 ・委員の方に修学旅行のお土産を配ることが決まっている。 やらざるを得ない形になっている。2年ぶりに行われている予定。 ・一昨年から設置されているが今年度がはじめ。 授業参観、生徒会の立会演説の参観を予定。 ・今年度から設置予定。学校の現状を知っていただく予定。 学校の紹介が中心になっている。 ◎メンバーの決め方。 地域の方が中心。バランスを考えなくてはならない。 人数が埋まってしまう。人数を絞っていかないといけない。 学識経験者、地域企業を選びたいが。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実際の授業等を見ていただき、現状を知っていただくことが大切。 ・地域の行事と学校の行事をリンクさせていけるとよいと思う。
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ブロック運営の難しさ 人選、地域性、地域のしがらみ ◎単独のやりやすさ ◎何か一つでも共通項目を見つけ成功体験 まち懇に運営協議会の理念を入れていくしかないか・・・ 	

3	<p>※CS設置校2校 未設置校2校</p> <p><設置校> さらに活性化するために。 学校の課題をしっかりと地域発信し広めていく。</p> <p><未設置校> 人選するために、まずはまち懇を活用して方向性を示していく。 近隣の設置校から積極的に情報を仕入れる。 (しかしながら壁があり、なかなかうまく進まない。) いかに教員を巻き込んでいくか、教員の理解を得るか、がキー。</p>	「じわじわ」は大切では。
4	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営協議会について知らせる。(機能、役割、根拠) ・未設置校だから →教職員、地域について、どのようなものを広報する。組織のあり方。 	<ul style="list-style-type: none"> ・十分な広報からの参加率の向上。(職員の) ・授業参観での職員からのアピール。

5	<p>A小学校 立ち上げまでにすること ・・・共通の課題を見いだす。自校の課題、ICT、働き方改革。</p> <p>B中学校 校長職がやることへのお墨付きをもらう。 =校長の味方になってもらう。方針を伝える。</p> <p>C小学校 課題・・・形骸化している。</p> <p>D小学校 課題・・・質の向上。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Meetでの会議、4校での話し合い。 ・ 年3～4回 校長の考えていることを実現する。
6	<p>◎授業改善 マーチングの継続、社会化に向けて（教育への移行）</p> <p>◎職員の意識を変えていくこと 学校の中でその存在が見える化すること。 まち懇ぐらの捉えであること。 もっと学校の課題を一緒に解決していきたい。 (いじめとか、児童指導に関わることなど。)</p> <p>◎地域学校協働本部、コーディネーターさん 学級のサポートをしてもらっている。(ex.1年生のクラスサポート)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域、学校運営協議会で学校の課題を相談し解決すること。 ・ 学校地域コーディネーター、学校運営協議会の存在、役割など。

7	<ul style="list-style-type: none"> ・立ち上げにあたり、小中単独か合同か。職員へ、地域へ。 地域コーディネーターの活動から。 ・人選が課題。 ・コロナ禍で集まれている。 少しずつ再開。職員も参加、地域の人と初めて会えた。 →思いを話す、語る機会を作っていきたい。ex.メンターチーム 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コーディネーター選任。
8	<p><設置済> 年4回 ①6月共有 ②体育祭を見てもらう ③土曜参観 ④3月まとめ ◎メンバーのこと。教職員の理解がまずいる。</p> <p><未設置> 令和3年度まで評議委員会だった。 「学校で課題を出してもらえば何でもするよ。」 持続可能な学校を考える。40分授業・・・理解する人、反対する人</p> <p>令和3年3月に、令和4年度の運営協議会に変わることを伝えた。</p> <p>◎人選。難しい。 ◎教職員の理解。教務以外の人に関わっていない。</p>	<p><設置済> コロナ禍で4回できず。書面を混ぜる。 ◎教職員が1回は参加というアイデア。やってみたい。</p> <p><未設置> 運営協議会の人に見てもらい、リアルな学びをつくる。</p> <p>◎目標の共有。 PTAとの関係がやはり関わってくるので、どう考えていくか、 進めるかを考える。</p> <p>◎教務以外の人に関わるように、会の進め方を考える。</p>

9	<p>2中4小の運営協議会設立</p> <p>「地区の再生を目指して」</p> <p>◎テーマを決めてそこへ向かっていくこと。</p> <p>◎学校の課題の違い、人数の問題</p> <p>→ここをクリアにするために月3回集まってまた打ち合わせ。</p> <p>「統合に向けて」合同運営協議会設立。</p> <ul style="list-style-type: none">・まずはメンバー選定、顔合わせ。・カリ作成、PTA、地域の交流、児童理解の方法、手段等を打合せ。 <p>小中ブロック（1中4小）</p> <ul style="list-style-type: none">・立ち上がっているが、各校の報告会で終わっている。・大学の教授もメンバー員。 <p>ボランティアとして大学生がよく関わっている。</p> <p>役割が少しずつ分かって動き始めている。</p> <ul style="list-style-type: none">・PTA、地域コーディネーター <p>→保護者だと卒業してしまうと終わってしまうこともある。</p> <p>人選はすごく重要。</p> <ul style="list-style-type: none">・プールの補助ができる人材の確保。 <p>学校が求めているもの、地域が求めているもの。</p> <ul style="list-style-type: none">・zoomでの盆踊り大会。	
---	---	--

10	<p>A中</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度立ち上げた。・現在の課題を提示。まず、地域の方々に学校を知っていただく。 <p>B小</p> <ul style="list-style-type: none">・R2年11月より立ち上げ。・昨年度の反省をもとに、学校経営方針を立て皆さんに承諾してもらった。・行事の補助等もお願いしている。 <p>人選については、校長が中心に行っている。 (1年の給食指導、スポーツテストの補助等。)</p> <p>地域コーディネーターが協力的。</p> <p>C小</p> <ul style="list-style-type: none">・H30に設置。・昨年の学校評価をもとにいろいろ改善したので第1回の会で意見を聞く。 <p>D小</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度立ち上げ予定。・人材の選定が難しく、苦労している。	
----	---	--

11	<p>・校長がやりたいことを進めるツール → 後ろ盾、協力 ex)働き方改革・・・和太鼓、合唱、ブラバン、困っていることを伝える。</p> <p>精神のバランスを崩す職員がいる。 学校運営協議会に語った。指導者に何か必要では？</p> <p>今年度立ち上げ。</p> <p>・まち懇、地域の方々が委員、R元実施 → R2以降、コロナで書面実施。 大学の方も委員。まち懇からメンバーを選定するか課題。 今のメンバーを生かしてやっていく。協力してほしいという願い。</p> <p>一小一中</p> <p>・中学を中心に立ち上げる。申請済み。中学のリードの上に乗っている。 中期学校経営計画とのつながりを考えないといけない。 まち懇の役員も入る。</p>	<p>◎学校運営協議会のキーパーソンに学校の困り感を伝える。 学校運営協議会で語る場をつくり、課題、改善について話し合う。 →地域が運営、指導を行う体制に変更していく。 学校の後ろ盾になってもらえる。</p> <p>・たし算ばかりの学校教育。合唱、ブラバン。 情操教育に良いが、学校がやらないといけないのか。 そのあたりを実態に応じて考えていくことが大切ではないか。</p> <p>◎今年度の立ち上げ。 まち懇を生かしていく。学校の状況に応じてやっていくことが必要。 中学が主体でやっている。 中期学校経営計画とのつながりなども考え、7月立ち上げ。 教員との共有が必要。</p>
12	<p>小中でちがう。ブロックは難しい。単体であるべき？ 1小1中ならやりやすいか。</p>	

13	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設置3年目。着任後コロナ禍の中でやってきた。 ◎中期学校経営計画の趣旨をしっかりと説明して理解を得る重要性。 ・生活総合に力を入れることを伝えて助力を得ていきたい。 <p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校種移動2年目。ブロック合同の協議会→小中連携とつながる。 ・コーディネーターの役割を明確化し、学校のニーズを打ち出していきたい。 <p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まち懇→協議会 一中一小に近いので、合同でやっていく。 ◎コーディネーターがピカイチなので助かっている。（職アシでもある。） ◎地域と学校の情報がスムーズにつながっている。 個人情報、守秘もクリアされている。 ・教職員の意識向上 <p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員人選の難しさ 	
14		

15	<p>設置校</p> <ul style="list-style-type: none">・コロナ禍のため、なかなか集合開催もできず、書面での共通理解で終わってしまっている。・まち懇メンバーから、目的に合う方を絞って選定した。 <p>未設置校</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度末までに設置できるか。・コロナ対応もあり、スケジュール的に厳しい。	
16	<ul style="list-style-type: none">・まち懇との違い・まちの思い・人選・準備会・周年行事・共通課題があるかどうか・子どもが中心かどうか	

17	<p>◎学校の現状を知ってもらおう。</p> <p>働き方・・・コロナ前と同じではなく 適当な距離を理解してもらいながら・・・</p> <ul style="list-style-type: none">・学校（地域、小中ブロック）の大切にしたい、 重点を置きたいものを伝える。相手のある活動。 児童指導上の課題。・地域の関係・人選。PTA（Co）から広げる。 中期学校経営方針を軸に	<ul style="list-style-type: none">・教職員の参加・・・したほうがいい。 セッティングのタイミング。△運営委の仕事上、授業中になってしまう。 →ビデオなど映像を見てもらおう。
----	--	---

18	<p>7月設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を見てもらう（地域） ・実際に職員に伝える（職員） ・年4回授業を見てもらう（来校時） ・地域コーディネーターに入ってもらっていく ・地域に学校を知ってもらう <p>未設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校と共同設置 ・職員への周知 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業参観設定 ・連合町内会議に職員参加 ・150周年行事実行委員に参画 →日中開催、参加職員に限られる。開催時間設定が難しい。 ・中学校ブロックでの校長会 地域の団体を母体として ・まち懇の実施 話し合い→授業見学→給食 年3回 課題、職員が時間的に参加しづらい ・研修
19		
20	<p>◎学校の応援団として、という点をアピールしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校の置かれている状況によって、違う点もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人選がポイント

21	<p>◎すでに学運協がある学校との連携をどのように考え進めていくかが課題 →解決するには？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例えば、小中ブロックで1つにするには・・・ 他の小ではすでにあり、そこも取り込んで中ブロでまとめるには？ ・小中一貫のスタンダードをあらい、統一性をもたせているところもある。 <p>◎目標、目指す子ども像を5つくらい揃える。そしてそれを目指す。</p> <p>◎委員の人選を進めるにはどうする？町内会の長等の集まりになってはいけない。</p>	<p>◎学運協の委員選定。コーディネーターも。</p> <p>◎小中ブロックでの設置を目指すならば、ブロック中での育てたい子どもの姿を共有し、実現するための取組においても共に取り組めるものにしたい。</p> <p>◎では、何に小中で共有、統一性（9年間の）をもたせるか。</p>
22		<p>※情報交換できました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人選 ・具体の活動 ・悩み等
23	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマに基づく人材選択 各学校の必要に基づく ex 高 スクールポリシー ・Coの人選のあり方の検討 	

24	<ul style="list-style-type: none"> ・職員との共通理解 組織と学校のやることのすみわけ (例：下校は地域の方にも関わってほしい) ・地域学校協働本部は中学校にとって「放課後学び場」を含め、とてもありがたい組織。 <p>※学校運営協議会は設置されていなくても、学校地域コーディネーターが存在していて十分に活動されていてありがたいという意見が多い。</p>	<p>※今年度設置していきたいが、地域によってはそこに立場があり簡単には人選ができない苦しさがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4月1日～6日の間に組織メンバーと教職員との自己紹介の場を設ける。
25	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の話を聞いて、R4. 7月に立ち上げる。 ・地域学校協働本部の動きを活性化したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人選を考える。校長としてのビジョンを伝える。 ・コーディネーターを増やす。学校のニーズを理解してもらいつつ、教職員の負担を減らしていけたらと思う。

Plan 学校運営協議会を運用していくにあたって、 <u>何を</u> していくか？	Do 実現するために、 <u>どのように</u> していくか？
5月16日	
<p>1</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎メンバーの選定（合同の場合は特に慎重に） ◎まち憩と協議会の意義の共通理解 ◎校内での共通理解を深め設置までのロードマップをつくる <ul style="list-style-type: none"> ・情報の整理を4つの小学校で同じフォーマット ・コロナ禍において地域との関係が進めにくい、把握しづらい（1中3小） ・近隣中との情報交換 ・委員の方に学校、授業を見てもらう ・区をまたいでいる学区を抱えている ・中学校単独での設置を検討している 	<ul style="list-style-type: none"> ◎メンバー選定のための調整、連絡、工夫 ◎まち憩と協議会の役割を可視化して示し共有する ◎ロードマップを職員に示し、準備を進める。
<p>2</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎現状把握（ブロック内で育てたい資質・能力、市学状データ） ◎まち憩からスライドではなく、もう一度整理、理解、運営協議会に期待することを整理（地域とのつながり） ◎カリキュラム絞り込む（例、SDGs、防災、環境） <ul style="list-style-type: none"> ・コーディネーター人選、ブロック内、校長間で調整 ・地域の方に自分事（責任感）、応援してくれるけど…（どのような人選すればよいか…事例を知りたい） 	<ul style="list-style-type: none"> ◎協議会で働きかけ（年間通して） ◎未設置、スケジューリング <ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者が会長の例も…教育に関わる（地域も知っていて）
<p>3</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎実態把握 ◎協議会メンバーの検討、選出 ◎育てたい姿の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ◎管理職→担当→全職員

4	<ul style="list-style-type: none"> ・委員の人への説明 メリットと責任 まち懇→運営協議会 ・まち懇を閉じる ・メンバーを考える 地域への説明 →自治会、学援隊 ・地域コーディネーターのお願い 	<ul style="list-style-type: none"> ・環境教育 ・職員の意識の確認 ・職員への説明 まだ職員もよくわかっていない
5	<p>◎これからはじめる、はじまるので…まずは職員にも発信をしていく。 ブロックでの本部なので歩調を合わせていく。</p> <p>・学校単体で…他の小学校と連携をしていくのか、まず委員の選定の人選を慎重に行いたい。</p> <p>◎6月に委員の人選をもう一度行う→学識経験者は校長（小中）</p> <p>・Coと学校が対等の立場で話をしていく。地域の材の検討。 事例を集めていく。どのようにつながっていけるのか。具体的な事例を集めていく。</p> <p>◎学校と地域のお互いにやりたい、できると思うことを共有していく。 →地域の特性、Coの特性を理解して進めていきたい。その特性の見極めが大切。</p>	<p>◎打合せ、職員会議、ミライムで職員に発信。同じことを繰り返してもよいし、小さいことでもどんどん発信。（漢方薬）</p> <p>・4月に1年間のカリキュラムを見直してもらい、職員から頼みたいボランティアの募集を聞き取った。（例、算数九九ボランティア）</p> <p>◎学識経験者</p> <p>・キャリア教育で「毎回お話を伺いたい！」と思う人を選んでも可。</p> <p>・カテゴリーを難しく考えなくてもよい。</p> <p>※地域連携課にすぐに相談！！</p>
6		
7	<ul style="list-style-type: none"> ◎委員選定 ◎コーディネーター選定 ◎学校教育目標の共有 	<ul style="list-style-type: none"> ◎要人への声かけ ◎行事や授業参観に呼ぶ ◎学校の実態の周知（強み、弱み）

8	<p>◎生徒育成のための資質・能力を確認する。～の力を身に付けさせたい。</p> <p>◎学校教育目標を共有</p> <p>◎学校の困りごとを洗い流す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人選 ・地域の材（こと、ひと、もの） 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方との役割分担を考える。 ・具現化に向けて取り組む。 ・本音で言い合える関係づくり
9	<p>今年立ち上げ</p> <p>①ブロックの育てたい子ども像を伝え協力を願う。 ブロックで子どもの育ちを見る視点</p> <p>②学力向上 学びの場をつくる。（3年計画で立ち上げ）</p> <p>これから</p> <p>①立ち上げへの課題を整理 → 形を決める。</p> <p>②委員の選定、教職員への説明、理解</p>	<p>①6月の学校運営協議会で伝える。 学校ごとの教育目標、取組を伝える。</p> <p>②学校運営協議会を通して地域と関わっていく→理解</p> <p>①ブロック内での話し合い 校内、教務主任等との話し合い</p>
10	<p>◎委員の選出</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロックのまたがりについて <p>（4校のうち1校がすでに設置済みであったため、その学校から準備、運用状況等について話を聞く時間が中心となりました。）</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・元PTA会長、主任児童委員 町内会長はメンバーに入れなかった（高齢のため） ・教務会、主幹会等で準備 職員会議で周知 市教委に協力依頼

11	<ul style="list-style-type: none"> ・委員が5名を増やすか（人選） ・委員が16名で重たい ・会合で困り感を出す（12名） ・関係づくりを良好にする <p>運営する以前に今年度をどのように立ち上げたらよいかを悩んでいる話で終わってしまいました。</p>	
12	<ul style="list-style-type: none"> ・地域を知る。 ・児童生徒の実態。 ・学校運営協議会の仕組みを知る。 ・校内での立ち上げの周知。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の本音を伝える。 ・授業参観→給食実食→協議
13	<ul style="list-style-type: none"> ◎メンバー選出（少ない人数） ◎学校課題を明確に。 ◎協議会の意義を説明していく。（地域、保護者、教職員） 	◎地域の力を借りることに対する教職員の意識を変えていく。
14	<ul style="list-style-type: none"> ◎現状の困り感の共有 <ul style="list-style-type: none"> →課題を見つける。 ◎中期学校経営方針やぐるぐるを礎にして、未来3年間の共有。 <ul style="list-style-type: none"> →子どもたちに身に付けさせたい力の共有。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ワークショップ形式の会合を取り入れる。 <ul style="list-style-type: none"> →事前に話し合いたいテーマを伝える。 ◎授業参観をしてもらい（現状把握からの）課題について取り組む。

<p>15</p> <p>◎メンバー選び Coと相談し、委員の選出。 長く応援団でいてくれる人を選ぶ。 中学校ブロックでどのように連携していくか検討。</p> <p>◎両輪のバランス 「活動本部」を活動ベースで立ち上げ、「協議会」を後ろ盾として進めていく。</p>	<p>◎カリキュラムとの関連 「やめる」ことにとてもエネルギーを要するのが課題。</p>
<p>16</p> <p>◎地域←→学校 ニーズ 擦り合わせ</p> <p>◎人選に苦慮 民間の方を入れるのは難しい→キャリア教育</p> <p>◎年配の方 町内会長の思いが強い。 昔のイメージ大。若い働き盛りの方とコンタクトが取れない。 ・コロナ禍のため、地域の方々となかなか会えない→昨年度1回のみ。</p> <p>・協議会以前でも情報共有できていた ガーデニング隊 総合・・・5年生と一緒に学校運営 絵本隊・・・動画 おやじの会</p> <p>今年立ち上げ 中学校ブロック ・近隣の学校と協議会のメンバーが重なる。土曜日開催。 部活・・・指導 不登校、学習の遅れ・・・支援 中学生にもっと地域に関わってほしい。</p>	

17	<p>今年度から本格的に動いている。小中ブロックでの検討。地域とキャリア教育での関わり。</p> <p>◎地域の声を聞く。CSになって数年経っているが内容機能のレベルアップ。</p> <p>◎職員間での再確認。目標やビジョンの共有。</p> <p>◎人選の精査。必要な人材は誰か。</p>	<p>月1回の小中ブロック会議を実施している。中学はキャリア教育をベースになる。</p> <p>◎職員への周知</p> <p>◎協議会設置会議を実施</p> <p>◎地域への説明、意見聴取、アンケート (地域へのアプローチ、自治会、民生委員、青指)</p>
18		
19	<p>◎地域のネットワークを広げるために。 幼保小連携、保護者ネットワーク</p> <p>◎カリキュラムにどのようにかかわってもらうか。 地域の活動に協力させられるのではなく。</p> <p>◎学校の課題の洗い出し 人手不足、部活</p>	委員の選定が大事

20	<ul style="list-style-type: none"> ・小中合同での立ち上げ→ビジョンを明確に ◎人選・・・絞る ◎コーディネーターの役割が大切。 ・人をつなぐ、つながりを深める。運営。 ▲地域の方もわかっていない。形骸化している。 ▲関りが薄い人も多い。 ◎地域、人、ものを活かした活動づくり。 ・育成したい資質能力の見直し ・学校の特色 ・学援隊 	<ul style="list-style-type: none"> ◎学校でやりたいことを明確にする。 ◎互いにコミュニケーションをとる機会を増やす。学校に来てもらう、関わる。 ◎まちの活性化のための取組
21		
22	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の特徴を整理しておく。 ・メンバーの人選、声かけ。 学校のまち懇のメンバーをもとに考える。 ・まちで何をするかを考える。 ・学校側の共有したいイメージを共有する。 ・年間計画の立案。 	<ul style="list-style-type: none"> ・体育で何をするか。それを共有、説明していけるとよい。 ・職員の研修をしなければならないかと考えている。地域とやってよかったという経験が少ない。学校行事を軸にしていけそう。 ・授業改善のためにまちにとび出していく体制をつくっていけるか。 ・連合町内会長さんたちは、みんな社長さん。どんなふうに協力、協働していくのか…難しい。中学校としてどう動いていくか。

23	<p>◎コロナでできなかった部分をどう仕切り直すか。 → 教職員、管理職の交代。知っている人がいない。</p> <p>◎メンバー（町内会長）の交代による引継ぎのなさ → 新しいメンバーの人選。</p> <p>◎地域コーディネーターの人選。</p> <p>・現状把握（学援隊、交流会、ハマロード等整理） ・担任不在の困り感、町内会との連携。 ・子どもたちの現状把握（登下校、生活、様子、学びの状況）</p>	<p>◎記録の掘り起こし + チャンスとして新しい流れをつくり上げる。</p> <p>◎新しい風を入れる。</p> <p>◎PTA役員さんからの人選等、ふさわしい人を再考する。</p> <p>・地域を学ぶ活動（講師） + 清掃活動（地域の人）</p>
24	<p>・今年度、この状況の中で何ができるのか。 今の学校の状況を見てもらいながら、計画を立てていく。</p> <p>・未設置校については人選について検討を進める。</p>	<p>・学校の行事等をできるだけ見てもらえるようにしていく。</p> <p>・委員の人数、回数を絞ってコンパクトな開催を目指す。</p>
25	<p>◎人選（まち懇、重点…生活・総合の地域材）</p> <p>◎教育活動を見てもらう。→学校の課題の整理。</p> <p>◎教職員の中での学校の現状把握。（強み、弱み）</p> <p>・キャリア教育に生かしたい。</p> <p>・校長のビジョン、教育目標の共有。</p> <p>△形骸化の部分もある。</p>	<p>◎外から見てのご意見をもらい、協議する。</p> <p>・声の強い人をどのように望ましい方向で活動してもらうのか。</p> <p>・人選を再考（当て職になっている部分もある）</p> <p>・よりテーマに沿った活動にしていく。</p> <p>△自己実現のためのボランティア活動。</p>

26	<p>◎学校のニーズ、明確化 (先生たちのニーズの発掘→コーディネーターにつなぐ)</p> <p>◎協議会の活性化、学校主体からの脱却。</p> <p>◎今の教育への理解の促進。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の材の掘り起こし。 ・運営協議会の機能。どんなことをしてるのか。 ・コーディネーターの発掘。 ・コロナ禍で止まってしまった交流の復活。 	<p>◎カリキュラムへの位置づけ。</p> <p>◎地域と一緒に考えてできることを考える。</p> <p>◎自分事にしていくための工夫。</p> <p>→協力者、理解者、ミドルリーダーの人材育成、コーディネーターさんの人柄大事。</p>
27	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバーの人選、コーディネーター選び ・まち懇等からの移行 	
28	<p>◎まず、委員の選定をどうするか。</p> <p>学校だけでやるのか、ブロックでやるのかをまず決めたい。</p> <p>幼保小中高の連携をねらっていきたい。学園コンサート等。</p> <p>地域の町内会長さんとの付き合いが難しい。</p> <p>校長の移動が絡むと選定が難しい。</p> <p>◎学校独自の取組や地域性を生かしていきたい。</p>	
29	<p>◎協議委員の選出が大切。学校の味方になってくれる方。</p>	<p>◎協議会設立時に委員を定数いっぱいにならない。計画的に増やしていく。</p> <p>◎コーディネーターの有効活用。</p>
30	<ul style="list-style-type: none"> ・現状を委員と共有。目標を立てる。 ・SDGs、UDを軸とした教育活動を説明。 ・自校でできるESDを説明。 ・職員への理解を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭を見ていただく。 ・地域とどう取り組んでいけるか。 ・Coをどのように活用していくか。

31	<p>◎こういう子どもにしたい。把握。改善点を話していく。 →できることが自然発生→相談、明確</p> <p>◎教職員への説明、理解してもらおう。一人ひとりが参画する意識を高める。 「当事者意識」地域連携への理解が必要。</p> <p>◎学校の課題を量る。 ex.総合学習でのキャリア教育の場で人材を探してもらおう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題把握 ・統合、どう設置するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の負担感の解消。 ・学校のよいところを見つけること。1～6年個、学年暦を作成→小学校では重点研、資質能力ベースに発信していくこと。 ・学校が困っていることを教員から聞くこと。 ・学校長が発信していくこと。 ・人選を少なめにしていく。相談したい。どういう方がよいのか。
32	<ul style="list-style-type: none"> ・PTAからの要望（校外等）仕組みを変えていく＝地区のアドバイス、提言 ・地域に出ていく、地域と関わる、専門家のリストアップ、継続 ・場所、地域の方が使える部屋を（オープンな部屋） ・地域と生徒のつながりがない。学校としてどういう役割ができるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織をつくっていく。地域人材（シルバー等） ・町内会長さんへの根回しなど。下打ち合わせ大事。 ・小学校、中学校 地域の力、地域コミュニティの中で。 ・中高 キャリア教育的な関わりも。
33	<ul style="list-style-type: none"> ・防災教育など。 ・今までやってきたことに引きずられがち。 ・2年間、書面での運営協議会となっている。 ・ブロックで立ち上げていく。（中学校が取りまとめていく。） ・組織にはいろいろな立場の人にバランスよく入っていただく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校と地域で話し合い、カリの中に位置づけていく。 ・過去の歴史を学び直す機会が必要。 ・対面での運営協議会を開催。授業参観などをして課題を見つけていく。 ・教職員が運営協議会についての理解を深めることができるようにしていく。 <ol style="list-style-type: none"> ①地域学校協働本部を立ち上げる。 ②毎月、支援委員会（学校支援本部）を開いている。 ③年4回学校運営協議会と地域学校協働本部とのバランスも大事。

34	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナで子どもたちの様子がわからない→まずは見てもらうところから。 ・やはり人選は大切。 ・近隣校とのブロック開催、単独校開催、どう判断したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・任期を設けるとよりよいのではないか。
35	<ul style="list-style-type: none"> ◎現状把握 ◎教職員の理解 ◎委員の選出 ・目標共有 ・担当者の自覚を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎情報共有 ◎ニーズに応じた計画・共有 ◎委員の人選をしていく。 ・委員と話し合う時間の確保 ・学校目標のプレゼン、目標の共有 ・評価を一緒につくる ・主幹会の活用 ・計画の見通しをもつ